

平成29年度学校現場における業務改善加速事業プロジェクト
委員会（第1回）の報告について

開催日時 平成29年8月31日（木） 午後2時～午後4時

議 事

1 審議事項

- (1) 「教職員の働き方改革プラン2017」について
 - 「教職員の働き方改革プラン2017」（以下、「プラン」）に基づいて定めたKPI（効果測定指標）について意見交換を行った。
- (2) 教職員が担うべき業務の在り方について
 - 教職員が担うべき業務の改善を図るための方策、業務支援アシスタントの効果的活用等について意見交換を行った。
- (3) スリム化を図るための学校支援体制について
 - 地域リソースの活用、コミュニティ・スクールの推進について意見交換を行った。
- (4) 教員の勤務の在り方について
 - 業務管理、勤務時間管理の改善について意見交換を行った。

委員から出された主な意見

- 業務改善に向けて実効のある取組を推進するために、負担感の変化、勤務時間の削減割合、ノー残業日の退校割合等、7つのKPI（効果測定指標）が策定された。今後は、KPIによる効果検証を行うとともに、実現可能性や妥当性等の視点からKPIの精度をより高めていく必要がある。
- 教員の勤務時間には、校務の時間と自己研鑽の時間が内包されている。勤務時間を分析的に捉えていくことが、勤務時間縮減につながる。
- 業務支援アシスタントの配置・活用による、教職員の業務量縮減と併せ、教員の従来の業務を不断に見直し、教員が業務に専念できる環境を整備する必要がある。
- 北方町はコンパクトな町であり、地域人材の協力も得やすい。市町村の規模に関係なく、汎用性のあるスキームを検討していくことが、県内全域の業務改善につながる。
- ノー残業日の本来の目的は、業務遂行能力の向上である。決められた時間内でよいパフォーマンスをすることにより、業務改善につながる。
- 業務内容及び勤務時間を定期的に管理し、修正していくことが、児童に対して教育的な効果を創出することを丁寧に教職員に伝えていく必要がある。